

Economic Indicators

発表日: 2020年8月11日(火)

国際収支(2020年6月)

～6月の経常収支は黒字を維持、季節調整値では輸出の持ち直しを主因に黒字幅拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2019	6月	12,532	18,744	2,440	1,224	1,216	18,153
	7月	20,233	16,864	44	523	▲ 479	17,744
	8月	21,351	16,003	160	484	▲ 324	17,229
	9月	15,571	14,213	▲ 515	▲ 232	▲ 283	16,526
	10月	18,182	16,918	1,949	1,229	720	15,996
	11月	14,206	17,715	1,750	842	907	17,577
	12月	5,094	18,484	3,306	1,805	1,501	16,300
2020	1月	6,267	16,370	▲ 1,208	▲ 615	▲ 593	18,967
	2月	31,464	23,282	4,822	8,184	▲ 3,362	19,894
	3月	19,268	8,891	▲ 4,691	▲ 1,407	▲ 3,284	14,629
	4月	2,627	2,524	▲ 12,939	▲ 10,235	▲ 2,705	16,876
	5月	11,768	8,211	▲ 7,334	▲ 5,412	▲ 1,922	17,621
	6月	1,675	10,492	▲ 3,581	▲ 2,257	▲ 1,324	15,839

(出所)財務省「国際収支統計」

○6月の経常収支は輸出の増加を受け季節調整値で黒字幅を拡大、4月を底に持ち直しが続く

6月の経常収支(原数値)は1,675億円の黒字(コンセンサス:1,328億円の黒字、レンジ:▲2,016億円の赤字～4,407億円の黒字)とコンセンサスを小幅に上回る結果となった。また、季節調整値では10,492億円の黒字(前月比+27.8%)となった。依然として低水準ではあるものの、輸出の持ち直しを受け、6月は季節調整値で2か月連続の黒字幅拡大となった。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、貿易・サービス収支は▲3,581億円の赤字(5月:▲7,334億円の赤字)と2か月連続で赤字幅が縮小した。貿易収支が▲2,257億円の赤字と、5月(▲5,412億円)から改善したことが主因である。内容をみると、輸出が前月比+2.6%、輸入が同▲3.8%と、世界各国での経済活動再開を受け、輸出は2か月連続で増加した。一方、輸入については、原油価格の低迷が下押し圧力となっている。サービス収支については▲1,324億円の赤字と、6か月連続の赤字となった。輸送収支、その他サービス収支の赤字が続き、旅行収支の黒字も訪日外客数、出国日本人数の急減から低水準での推移が続いた(旅行収支 4月:158億円の黒字→5月:184億円の黒字→6月:198億円の黒字)。

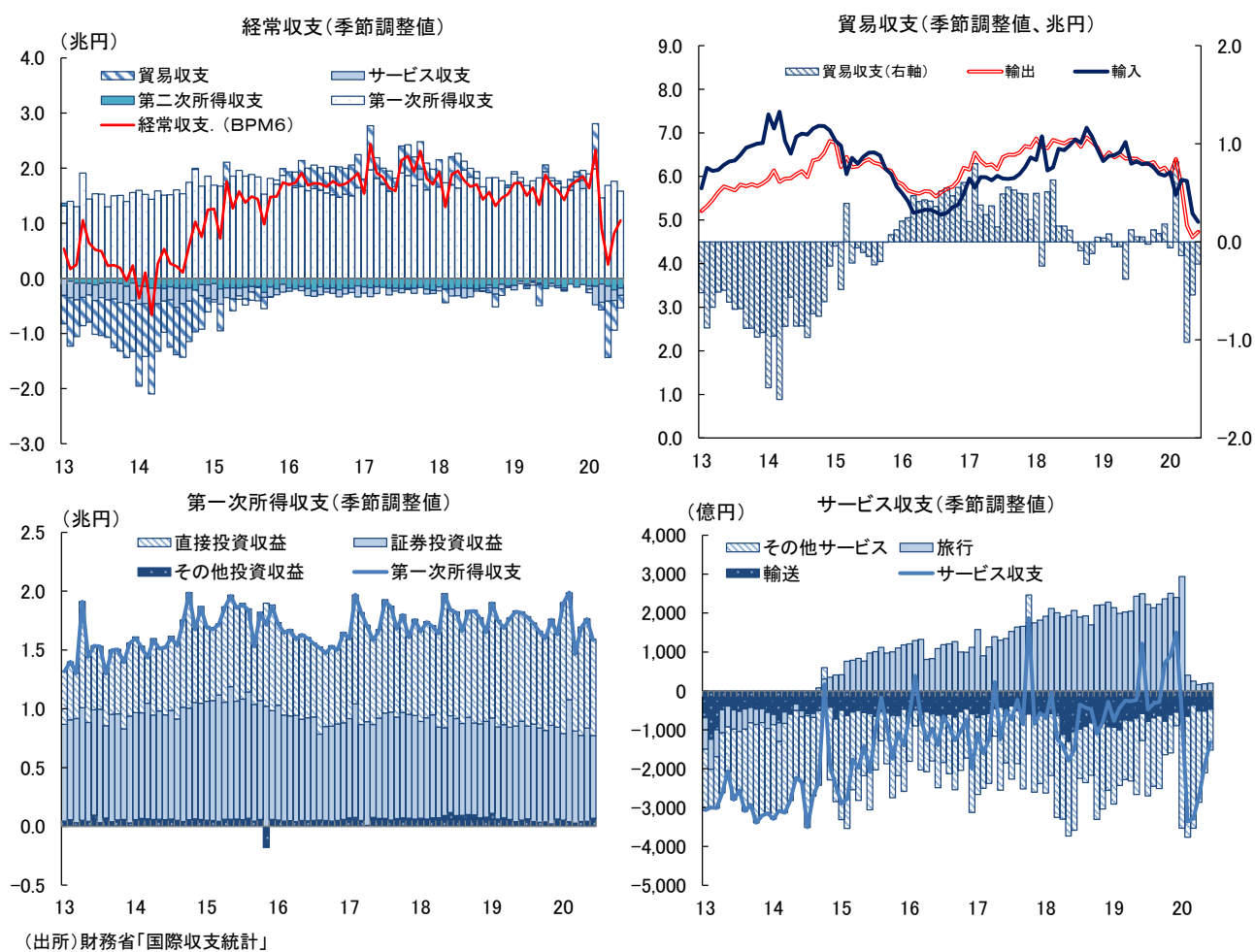
第一次所得収支は15,839億円の黒字(5月:17,621億円の黒字)と、黒字額は直接投資収益の黒字縮小を受けて5月から減少した。とはいえ、第一次所得収支の黒字は高い水準を保っており、第一次所得収支の黒字が経常収支を支える構図が続いている。

○経常収支は7月以降も持ち直しが続くと予想するも、持ち直しのペースは不透明

以上の通り、6月の経常収支は輸出の持ち直しを受け、季節調整値で2か月連続の増加となった。7月についても、引き続き貿易収支の改善を主因に、経常収支は季節調整値で黒字幅拡大を見込む。

7月の貿易統計上中旬によると、輸出が前年比▲20.5%、輸入が同▲23.6%となった。前年比では大幅な減少が続いているものの、前月比で試算すると輸出は6月から増加、輸入はほぼ横ばいとなる見込みで、7月の貿易収支は黒字に転じる可能性がある。その後も各国での経済活動再開を主因に、輸出は持ち直しが続くと予想する。低水準での推移が続く旅行収支については、一部の国・地域を対象としてビジネスを目的とした訪日客の入国制限緩和が進むなど、訪日外客数回復に向けた動きが進んでいる。とはいえ、国・地域や人数が制限されていることなどから、旅行収支の回復には時間を要するだろう。

4－6月期の経常収支は、新型コロナウイルス感染拡大により前期比▲50%を超える大幅な減少となった。7－9月期については、各国の経済活動再開を受けた輸出の持ち直しを主因に、経常収支は黒字を拡大させると予想する。とはいえ、新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることやそれに伴う経済活動の制限、また米中関係の悪化などリスクもあり、持ち直しのペースは不透明感が強い。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。